823
M2H5

雲隠説

47

Freer Gallery of Art
Washington, D.C.

雲隠　有巻名無本詞　義諸抄にあり

河　巻ノ名有無本ハ只空にひかりかくれ給ふ
といへるをなり

先　雲がくれとは人の逝去をいへるなり　万葉に人
の逝去の事を　くもがくれ　命ありしあれど
發端の歌より出たり　雲隠などといふ　百傳
の磐余の池に鳴く鴨をけふのみ見てや雲
隠れなん　此外不可勝計　されど此巻雲隠
といふ名は源氏薨去し給ふ事のみの名と
みて付る名也　隠居　雲がくれ同事也　源氏のこ
とは幻と匂宮との巻の間八ヶ年の内
にありし事にて此人をせまほしきは此巻にこめ

さらにまた空の名を以て詞となしぬましへハ
天台に有門空門亦有亦空門非有非空門
此四門いと有門の得道ハ毘曇論にあかせり。
空門の得道ハ成實論に明せり。非有非空
門の得道ハ迦旃延経に説。亦有亦空門の得
道ハ毘勒論に明せりといへども、迦旃延経
毘勒論ハ天竺にとゞまりて漢土に不
来。然るを大師有門空門の義にそへていま
だ経論を見ざる事を表明しまつる。又毛
詩小雅の中に南陔白華華黍由庚崇丘
由儀の六篇ハ篇の名のミ有て詩の詞なく
なし。是ハ逸詩といひてありしへ詞なきがゆへ。

すべてこれによりて東廣微といひしハ
詩を作りて補亡の詩と名付。文選第十
九の巻にあり。今の空ぐれの題を作るの
習中にあるべし。然るに此空の崩御とあ
らんにいたりては此題の名によろしからず
玄源寺粉の作者の名乗も上古の名賢の
中に此のやうなる人ハあらざる事武内大臣
以下も例多し。菅綱神仙傳などにも多
見えたり。又此道の先達業平朝臣ハ
芳野川の河上の窟てんの川に入定しける
中将家の縁起にまでこそ然るやうの心
すても絶えとはいへども、これハ此物語ぬ

色をあらはし花鳥風月をもてあそぶ
ともがら仁義禮智信をまもらしむ人乃
善悪の教ゆへ又天台空假中と亦有亦
空門乃四門を應にもちゐて聲聞縁覺の
理をあらはし桐壺の御門より神さくとよ
ち業上源氏一部の書法華經になしと
以てしるそれハ雲かくれ之巻此巻をもて諸
人を佛道にすゝめん為の義法華経の本意
となへまや天台ちまへ四教一ニハ三蔵
教二ニハ通教三ニハ別教四ニハ圓教也此
内三蔵ハ帚木の事を教へ通教ハ帚木の
理を教へ別教ハ帚木の事を教へ圓教

ハ帚木の理を教とらるへし是浮舟玉鬘
の法事也是ハ法門の心得之源氏のまゝにあ
らんば此四教ハ花嚴阿含方等般若法華
涅槃五時を四ゝにとけて御法しるを四教
と以つり六かれとも涅槃ハ法花に入あり
法相にハ又時をも三に分之四教に空門空
門相を相空門亦有亦空門をあらはし三蔵
をいはれをも四ありもえとくも五分て
ち附ハ三蔵教に空門の心をし通教に空
門因教にも相を相空別教に亦有亦
空なり
又日ク嘆花の白宮巻乃端に迷二雲隠事一云

雲隠と名付る事万葉の哥よりあり
直名無実事天台四門ニ寄之至河海
空假中ノ事ノ有源氏物語中此物語作物
語なれは空道也又法延喜者假諦也
雲隠ハ中道也釈尊の時数と同ク此物語
亦人意ハ又へ十四帖皆亦空し意ハ
又源氏雲隠之後紫微院に終まても以
至至ハ又亦悉亦空之
此物語先書ク好色道ヲ終ニ亦佛道ノ之意可見
水波之譬ハ有之又云雲隠之事此物語中ノ
貴人義色為無常ノ称表情多之自桐壷
至ニ紫ノ上ニ既ニ事ノ盡ヌ故ニ光源氏ノ終焉ハ不
定也若書之者可言語道断也又無孫乱
仍テ雲隠巻之中ニ譲之也云々幻巻ト與此
巻之間九年なるべし薫の年幻の巻
まても又六才より十四歳まて九年く
愚案此喩花の説く河海花鳥乃両
抄を合を交へくきさまく那みしく
大かたかりしる所なししらて河花の両抄
今宮ねそしらふるよ及ばすとへども細
流の雲隠乃此説よ河海花鳥よあきさ
よしあり。孟津抄の雲隠乃此説よ
色々この両抄ハかりをもらしまへり
さまさまく好事の学者此によまへり

一 河
へよりこつゝね侍り
雲隠れと名づくなるは
此世ハ常ならなし只名をのこしてものゝ名を
形あるもの名残まで六条院ひかり隠れ給
ふ心あるくるしくハ此詞代ゝ集にも数多あれ
どもも万葉集に人の逝去なるを皆雲隠
ましといへり

万一 弓削皇子薨時置始東人哥
大君は神にしませば天雲の五百
への下にかくれ給ひぬ

万三 大津皇子被死時作哥
りつくの岩根の池に鳴鴨をけふの
つゝそや雲隠れなん

万三 神亀六年左大臣長屋王賜死之時作哥
大君の見こともかしこみおほあらぎの時には
あらねど雲隠れまして

万 天平七年新羅尼理願死去時大伴郎女悲嘆作哥
とゞめえぬ命にしあれバ敷妙の家より出
て雲がくれましこのほかおほく作者もこゝに
も此詞を　逝去の事にあらしかく
めぐりあひて見しやそれともわかぬまに
雲がくれにし夜半の月かな

一 名ばかりを受て巻とも見えぬ事

天台所立四教　三蔵教　通教　別教　四教　四門　有門　空門　非有非空門　亦有亦空門

空門有門乃得道毘曇論。空門明道ハ成實論に明せり。非有非空門ハ迦旃延経に説

亦有亦空門ハ昆勒論に明せりとしるしげに

も此経論天竺にとゞまりて漢土に将来

せざりしを大師有門空門の義にかぎり

ていひしも経論そなへざりし四別二教と判

じ給ふ不思議そなはり今の雲がくれの巻

を作者の胸中にとゞめりて世に傳へ

ざりけるにや。詮なき不立六条院崩御を

あらはにいはずしくも巻の名にこめたり

代甚深なるにや。凡上古名賢の中に後

義。源氏ハ不知なきを

ハ不可謂之。此例不

一蔵。

のやうを人しらざりしを。武内大臣の下で例

多し。本朝神仙傳などにも多くみえし

より又始也の名乃先達業平朝臣芳野

川の河上乃竈でんの川に入定しけるに

しづかの縁起にみゆるとなく

六条院頓滅之事

黄帝の天にのぼりしに比擬せられし中古

の先達もとまりのありて所見なく

し今案としてしるし。當木の巻には八葉大

将の洞に故院失ひて後二三年斗まに

世をそむきてひし嵯峨院に六条院に

とさしのぞく人の仏ちさめんとしたまへりん

箋此河海抄正義也

作りけるといつの世よりのまぎれにか源氏院より
源氏物語うつしはじめしより雲かくれの
巻とて一帖まじへたるその巻中の文通ん
なりがたし。其間に朱雀院兵部卿宮致仕大
政大臣鬚黒(ニゲグロ)大臣以下の人々多く失せられ
けり。何とて六条院ばかり崩御とのみ名をき
かや。又兵部卿宮薫中納言幻巻の末にか
幼稚(ヨウチ)とみえたり。十四歳なるに匂兵部卿宮巻に
これ元服あり。中将侍従とみえたれば此ふ
かく思ひ合すべし

花
此巻は名のみにして其詞はなしとその
詞なしは六条院の昇遐(セウカ)の心をあらはすなるべし

よりて雲隠れとは名付作り幻巻の末に
続きて越年の用ここにありげなり極めて六条
院は出家しておはせしその末にまうせらる
業明抄にはや作れど花鳥余情巻にも六条院世
をのがれ給ひて二三年ばかりさがの院に
隠居しおはせしかばそれは此詞にて頗
蔵の事には河海にやぶれたりぬ。幻巻に
は薫大将は五歳の時なり。匂兵部卿宮巻の始
にひかられまひし後とは三編匂宮
巻にはかかり十四歳と。故に薫六歳より
十三まての事八ケ年の事は橋姫の巻に
はあるし作らざれば雲隠れの巻の中

箋　毛詩第九
南陔ハ孝子相戒テ以養也
白華ハ孝子之絜白也
華黍ハ時和歳豊ニシテ宜黍稷也有其義而亡其辞也
由庚ハ万物得由其道也
崇丘ハ万物得極其高大也
由儀ハ万物之生各得

まさゞの地に二三年隠居して其後崩
御しありしと此書に題あらざる次
へきこと棹此書の名づけられて題とする也
また天台の四教乃法門も例に用ひられど
乃我物をとくさに他しゆり俗書をとりてい
たぐ毛詩の小雅の中に南陔白華華黍
由庚崇丘由儀の六篇ハ笙篇の名のミあり
て詞ハなし是ハ逸詩といひてもとより詞を
しらせざるゆゑ是に依りて東晳といひ
し人詞を作りて補亡の詩と名付て文
選の第十の巻に乃せたり。朱晦庵も笙
詩といひて楽曲の名なれバその詞なし

りとありあるへりし源と釈し伝りいふ渡
篇の名乃ミありて其の詞なきにて同し
愚按　細流乃雲隠の所説て呼紀の説
と異しまへ為に似すり。もとより文章の
端にあらず終くゆへ今こゝにあらうたべ

箋
薫自六帖至十三帖八ケ年のこと漏脱し
此九ケ年のこと可在雲隠巻之中也其故
ハ幻巻ハ光五十二也此巻ハ九七也此中間よ才六ハ
雲かくれといふ巻の題号をのこしく実ハ
其事を不書是則筆者の妙術也
源氏一世之行状徳厚ク誉高ク才智人ニ勝
レ栄花世ニ超タリ然レハ其身終之事ヲ猶普

通ノ儀ヲ以テハ不可ニ符合也。司馬遷班固范
曄温公モ筆力不可及。縦或木食草衣隠
遁修行之儀雖如佛在世之時無其奇。
特若又現神變不思儀者人不可信之或ハ
入滅之時聖衆如星列紫臺ノ雲ヲ引テ親
來迎ノ相ヲ示シモソレハ目馴テ尋常ノ物
語ニ似タルヘシ。人夫悲ヲナシ五十二類悲歎啼
泣ノ想ハ佛ノ涅槃ニ尽ヌレハ是亦事旧タリ。
若又登仙換骨シテ共形骸不留トストモ
頗可似虚誕依之同文称不及一言之処却
而盡善盡美義者也

惣別此物語哀傷及数人桐壷ノ更衣夕良
上葵上柏木六条御息所紫上大君等也

薄雲　本ニナシ私入之ヲ
桐壷帝

已上等ニ皆事盡ヌレハ大方ノ筆力ニテハ不
可符合。左云此上ヲモ一廉ノ文章ヲ耀スベ
キ筆ハ式部が手ノ内ニ有トシルベシ。筆ヲ爰
メ文ヲ闕ストハ不可見一切ノ事不言之処ニ
妙處アリト云事ヲ示ス義也。維摩一黙則
千言万答是也　猶河花し既暁花し既去る

へつりあり思く

愚案ニ世ニ源氏物語六十帖といひ
ならはして只五十四帖あり。雲隠乃ふ巻
名のみありて其詞なし。もとより空之巻
を中よりつくりたるべし。是管見の所術

書之巻なり世に流布りしかるに年。ふる
りて後人雲隠の巻をとりて補ひ桜人
巣守 刺櫛 八橋 嵯峨野など下などい
ふ巻をそへて。六十帖の数を満し
めんとかや。これ文殊みつからしるしなきも義
をも亦清くなかし。桃花の菓園乃なくにも
巻の名ばかりありしとかせまつりとて人ともに
を調とらく八一云をも見ひかさせて。をかの
法数一切なりとも此法のかたとしあるべきされども
むぐ經自らしるくむ物かたりべし。これは外
物語六十帖は天台の六十巻に准せり。
ゆくへに六十巻も止観よ闕あるま

前にしるかたり。されば紫式部継此君
をめくして六十帖にとらしめめなぬ
ましられゆりや。此雲隠の八年は名
に光源氏朱雀院の崩御後仕大臣出家
異大臣第一ある几薨。そ外女二宮の
三条宮にうつりすむ。人々は宰位
昇進の事なともとくの事これ
またある趣ある巻とに記されり。
まさしみなへんと情あ侍へりくして